

本吉地方小学校教員の理科指導力向上の試み

～小学校理科部会の取組を通して～

本吉地方教育研究会 小学校理科部会（気仙沼市立白山小学校 校長）

豊田 康裕

1. はじめに

児童の理科の学力向上にとって、理科を教える教員の苦手意識を取り除き、自信を持って指導ができるようにすることは喫緊の課題である。

本部会では平成 24 年度から 3 か年に渡り、約 30 名のチームで研究に取り組んできた。

2. 本吉地方の教員の実態から

理科指導に苦手意識を感じている本吉地方（気仙沼市，南三陸町：以下地域）の理科を担当する小学校教員の割合は全国平均に比べて 10 ポイント以上高い。その要因として、生物単元の指導時期が地域の気候と必ずしも合っていないことが第一に挙げられる。その他には予備実験の時間がとれないことや、地域の多くの小学校が学年単学級であること、校内研究で理科を取り上げることが少ないなど、悩みの相談や効果的な指導法について情報の取得が難しいことがあった。

そこで、地域にあった指導の見通しを持てるようにすることや、適切な情報の提供が大切ではないかと考え、以下の手立てを講じた。

3. 理科指導ヒント集の発行

平成 24 年に「過去に指導困難だった内容や、成果のあった指導法の記述調査」を行った。それをもとに平成 24 年、Q&A 形式の「理科指導ヒント集第 1 集」、改訂版として平成 25 年、「理科指導ヒント集第 2 集」を作成し、各学校に配布した。

4. 理科だよりの発行

実験や観察の留意点や、準備の工夫などの会員の実践例を取り上げた「理科だよりの」を配信した。授業研究会や観察会、書籍の紹介も掲載し、月 1 ～2 回、単元の指導時期に沿った情報を提供した。

5. 授業研究会、観察会の開催

情報提供に加え授業研究会を実施した。更に当地域が古生代後期から中生代の地質であるという特性を生かし地層や化石の観察会も実施した。それらの成果を平成 26 年宮城県理科研究大会で公開した。



【宮城県理科研究大会研究紀要】

6. 成果と課題

「理科指導ヒント集」発行については、平成 25 年度のアンケート調査でほとんどが「大いに参考になった」と回答したり、「2 年継続して理科を指導する教員」の自信感が向上したりするなど効果はあった。しかし、今年度新たに、理科を指導することになった教員の約半数が未読であるなど、担当教員同士の引継ぎが十分になされていないことが課題であることが分かった。

そこで、今年度は各校で一層の情報交換がなされるよう、当地域の小学校で理科を指導している全教員に「理科だよりの」をメール配信した。

7. おわりに

理科指導ヒント集や理科だよりの発行、授業研究会と観察会を実施した結果、本部会員自身の研修の充実と共に、本吉地方小学校教員の理科指導の悩みに応えることができ、理科指導力の向上に寄与することができた。